

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月1日

イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて、弟子たちに渡しては配らせ、二匹の魚も皆に分配された。－マルコ6:41

私たちの人生と神への奉仕における最も基本的な必要は神の祝福であることは明らかです。他の必要はありません。では祝福という言葉によって何を意味するのでしょうか？祝福とは神の業が期待できないところでなされる神の業です。たとえば、あなたは、1ペニーは1ペニーの価値があると考えているでしょう。しかしあなたが1ペニーを支払うことができないとき、神が1万ペニーを下さったとしたら、あなた自身には何も誇ることはありません。5つのパンが5,000人を養い、12かごにくずが一杯になったのです－それは私たちの奉仕の実は、私たちが持っていた賜物をはるかに超えて得られることを意味し、それこそが祝福です。あるいは、もっと極論を言いますと、私たちの失敗と弱さを考慮するならば、私たちの努力による実は何もありません。が、そこにも尚、実がなるのです－これが祝福です。祝福とは私たちのあり方に基づく神との関係から生まれるものであり、単なる原因と結果によるものではありません。祝福は私たちが認めること以上に、神が働かれる時にもたされるものです－それは、ただ神の御名の栄光のために。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月2日

詩篇8:2,9 主よ、わたしたちの主よ／あなたの御名は、いかに力強く／全地に満ちていることでしょう。天に輝くあなたの威光をたたえます。

人々が主の御名を貶めている間、詩篇の作者は主の偉大さの不思議さをただ褒め称えていました。彼は詩人だったとは言え、彼自身その価値を形容する言葉を失っていたのです。彼が言い得たことはただ「何と素晴らしいことでしょう！」だけでした。そしてこの威光の素晴らしさは「全治に満ちている」のです。ここには明らかに創世記1章において、神が言われた「はなはだよかった」と言う言葉との対応があります。しかし彼はこのように詩篇を開始したのですが、その最後を人類の墮落についてあまり触れることなく、神の御名の卓越さを強調して終えています。もし私たちが詩篇を書いたとしたら、おそらく墮落の観念をもたらすことになってしまったことでしょう。しかし神は変わらない方であり、詩篇の作者にとってはアダムの罪ですら、神の当初の意図である「人がすべてを治める」ことを無効にすることがなかったのです。この時点でイエス・キリストが介入されます。それはヘブル書2章と詩篇8編の照明です。彼は人です。そして彼はすでに罪を処理して下さったのです。彼にあって神のすべての願いは成就し、私たちは彼と結びつけられているのです。ですからもはや神の道から反れることはありません。私たちはただまっすぐに歩むだけです。「神の威光をたたえます」。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月3日

時を贖い取りなさい、なぜなら時代は邪悪であるから（エペソ 5 : 16）

神が定めたあなたの道において、今日という人はあなたの人生の最も重要な日であるかも知れません。ところがあなたは今日という日を他の日と同じように何気なしに過ごしてしまうのです。今日という日が昨日と同じである人は、神のタイミングに対する感受性を持っていないのです。神の僕は今の得ている状態で満足すべきではありません。それで満足する人は機会・チャンスを失う人であるのです。

今日1月3日に主があなたの心の中に、出て行って、主の摂理によって、魂を獲得する主の御手にある有能な奉仕者となるべきある人を探し出す促しを置かれたとします。主に従うことは私の人生において最も偉大な行為になることでしょう。しかし、もしその日に寒さを嫌い、あるいは何か些細なことを避けるために出て行かなかったとしたら、どうでしょう。私はそのチャンスを失い、多分その神のための有能な器を得ることができないことでしょう。そして最も重大な問題は、そのようなチャンスは私たちを待ってはくれないのです。それは速やかに過ぎ去ってしまいます。ですから神が動かされるならば、私達も主と共に動くのです。神が送られたチャンスは決して逃してはなりません。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月4日

わたしたちはまた、神の協力者としてあなたがたに勧めます。神からいただいた恵みを無駄にはしてはいけません。2コリント6:1

神は私たちをご自身のために救われました。パウロは言います、「何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです」と。私たちは単に永遠の救いに向かって捕らえられただけではなく、今このときのきわめて具体的な目的のために召されたのです。それは神の同労者となることです。今日の神の働きとは何でしょうか？それはすべての事柄をキリストの中へと向かってまとめ上げることであり、宇宙に存在するものをすべて高く上げられた神の子キリストとの調和から外れないものとする事です。私たちはどのようにして神に協力できるのでしょうか？どうしてそのような高き御業に与ることができるでしょうか？私は分かりません。しかしパウロと共に、その目的のためにすべてを捕らえることを求めます。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月5日

神の恵みによって今日のわたしがあるのです。1コリント15:10

あなたの人生における神の働き方は、あなたにとって親しいものとなっていますか？あなたを大勢の群集の中から選び出し、神ご自身のものとされることによって、あなたは其中で神の働きがなされる神の道に捕らえられたのではないのでしょうか？ああ、私はそのことを何としばしば思い巡らすことでしょう。救われた時、私は学生でした。私には400人以上の同窓生がいました。その中から神の選びの光が私に当てられたのです。どうしてそのようなことが起こり得たのでしょうか？私は大きな民族のひとりでした。その中から神は私を選ばれたのです。どうしてそんなことが起こり得たのでしょうか？神の恵みが私たちに注がれる驚くべきその道程を思い巡らす時、大いなる畏怖の念にあって、主のみが神であることを認めつつ、私たちはただ御前にひれ伏すのみです。

どうして神は自分を救われたのかとあなたはたずねることでしょう。私はこう言いたいと思います。あなたを救うことは神の喜びだったのです、と。神があなたを求めたから、あなたを選ばれ、あなたを御自身のものとされたのです。よってあなたには何も語るべきこと、行うべきことはありません。ただ神を礼拝する以外には。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月6日

わたしを苦しめる者を前にしても、あなたはわたしに食卓を整えてくださる。わたしの頭に香油を注ぎ、わたしの杯を溢れさせてくださる。-詩篇23:5

私たちの兄弟であるパウロはピリピ人に対して、ある偉大にして高貴な宣言をしています。彼らはパウロにとっては唯一の物質的な援助を提供した人々であり、その彼らに対してパウロは、「私はすべてに満ち足りている」と宣言しました。パウロは自分に欠乏があるという一片の示唆をすることなく、豊かな天の御父の豊かな子供としての立場を取り、それによって今後の援助が打ち切られるかも知れないといったことを微塵も恐れなかったのです。それは打ちひしがれている未信者に対しては、彼自身も次のように語ることがあったかもしれません：「私にも金銀はない」と。しかしパウロにとって、喜んで援助の手を差し伸べようとしている信者に対して同じ事を語るは決してあり得なかったのです。パウロ自身の欠乏を明らかにすることによって、聞く者たちの側の憐憫の情をかき立てることは、決して主にとっての栄光ではないからです。もし私たちの信仰が真に主のみに置かれているならば、私たちはただ主を頼りとし、主にあって誇ることができるでしょう。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月7日

敵であったときでさえ、御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解させていただいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです。-ローマ5:10

神がみ言葉の中で啓示された私たち人類のあらゆる必要のために神が与えたもうた回答はただひとつです:すなわちご自身の御子イエス・キリストです。神が私たちを取り扱われる方法の本質は、あらゆることにおいて私たちを取り除き、キリストに置き換えることです。神の御子は私たちを救うために私たちに代わって十字架で死なれました;御子はまた私たちを自由とし解放するために、私たちに代わって生きて下さいます。よって二つの身代わりがあることを知ります:私たちの罪の赦しのための十字架での身代わりと私たちの勝利のための私たちの内側での身代わりです。もし私たちが次の事実を常に意識し続けるならば、それは大いなる助けとなり、また多くの混乱から私たちを救い出します。すなわちそれは神が私たちの問いかけに答えられる唯一の方法は、ただ御子を私たちに啓示すること、なのです。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月8日

激しい雨の音が聞こえる。—1列王記18:41

エリヤはいかにすべてのことを神のみ手に委ねたことでしょうか！3年半の間国中に旱魃が続き、水はほとんど枯渇していたのです。それでも彼は犠牲の備えに対して神が報い、激しく雨が降るであろうと主張したのです。「なんと！雨も降らないのに、たくわえの水を流し出すなんて何と言う無駄！」しかしエリヤは「流し出さなさい」と言いました。「2度、3度！」と。それだけでは満足せず、エリヤは自らの手によって、周囲の堀を水で満たしたのです。

神が豊かに報いて下さることに与るためには、私たちの持てるものを神の手にすべて明け渡し、お委ねする必要があるのです。「でも、雨が本当に降らなかつたらどうするの？」とあなたは抵抗するでしょう。「水を備えておかなくてはならないのですから」断じてそうではありません！そのような歩みは干ばつと不毛に終わるでしょう。神に委ねなさい！

ウォッチマン・ニーの務めから



日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月9日

主の慈しみに生きる人は栄光に輝き、喜び勇み／伏していても喜びの声をあげる。  
-詩篇149:5

ここに真にキリストの勝利に生き、それを喜んでいるクリスチャンの絵があります。彼らは床に伏していても勝利の叫びを挙げ、喜びにあつて主のうちに安息しているのです。この立場が何を意味するか考えてください。彼らの背中では地に向かっておりますが、これはこの世を背後に抱えていることであり、一方彼らの顔は天に向かっており、そこにある永遠の価値に思いを置き続けているのです。そのような「床」は単に安逸をむさぼる場所ではなく、有効な奉仕のための舞台なのです。あなたはもしかすると床に伏さざるを得ない状況にあるかも知れません。しかし主に対する最上の賛美があなたの口に常にありますように！

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月10日

なにゆえ、国々は騒ぎ立ち／人々はむなしく声をあげるのか。-詩篇2:1

その回答はただちに得られるでしょう。それは「諸々の支配たちが主とその油塗られ者に敵対している」からです。国々の中の敵対心がいかに激しかろうと、世の政府は根底においてひとつとされています。それはキリストの支配に敵対する点においてです。私たちはある国は善であり、他の国は悪であると評価するでしょう。しかし聖書は「この世の君」がすべての国の背後にいることを指摘しています。彼に促されて、現在の国々はキリストの律法に基づく裁きから完全に自由になろうと試みるのです。彼らは愛を求めません、謙遜も求めません、真理をも求めません。「キリストのくびきを打ち捨て、キリストの戒めを投げ捨てよう」と彼らは騒ぎ立ちます。

ただこの一点において神は笑われます。王である神はすでに聖なる丘の上におられるのです！初期のクリスチャンたちはキリストの統治をきわめて意識していました。今日の私たちも、今までに勝ってキリストの統治を経験する必要があります。間もなく、おそらく私たちが生存している間に、キリストはご自身の杖を持って国々を統治されるでしょう。私たちの責務は人々に対して「賢くあれ！」と、また「ただキリストに信頼なさい」と勧めることです。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月11日

しかし、わたしは主によって喜び／わが救いの神のゆえに踊る。-ハバクク3:18

ガリラヤの少年が主の元にパンを持ってきたとき、イエスはそれをどうされたでしょうか？主はそれを裂かれたのです。神はご自身に捧げられるものをすべて裂かれるお方です。神は得られたものを裂かれ、それを祝福され、人々の必要を満たすためにそれを用いられるのです。あなたの経験や私の経験もそうではなかったでしょうか？あなたは自分を主に捧げます。するとすべての事柄が悪い方向へと向かい、あなたは主の方法に何か誤りがあると考え誘惑に駆られたことでしょう。そのような頑なな態度は砕かれる必要があるのです。確かにそうですが、何のためでしょうか？あなたはこの世へとあまりにも向かい過ぎているので、主へと十分に向かっているのではありません。これが多くのクリスチャンにとっての悲劇です。私たちは神に用いられることを願うことでしょう。であるならば、毎日毎日、自分自身を主に捧げすることです。神の方法の粗探しをするのではなく、神の御手の下に賛美と期待をもって服するのです。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月12日

この者たちは、小羊の行くところへは、どこへでも従って行く。この者たちは、神と小羊に献げられる初穂として、人々の中から贖われた者たちで—黙示録14:4

私の故郷の福建省はオレンジの産地として有名です。私は(多分私の先入観であるかもしれませんが)あえて言いたいと思います。世界の何処にもこのようなオレンジはないでしょう、と。オレンジの時期の開始の頃に丘の上を見るならば、その畑は緑で一杯です。しかし目をよく凝らしてみるならば、すでにその時期においても黄金のオレンジが木々に隠れてあちこちに実っているのが分かります。緑の木々の中に黄金のオレンジが点々とあちらこちらに見える様はとても美しい光景です。後になるとすべての実が成熟し、畑は黄金の実で一杯になります。しかし今の時期において最初の実が刈り取られ集められるのです。それらは注意深く手でもぎ取られ、市場で最も高い値が付けられるのです。時には他のものよりも三倍の値がつきます。

すべてのクリスチャンがいずれ成熟することでしょう。これは明らかです。しかし子羊はご自身の最上の時のために初穂を求めておられるのです。

ウォッチマン・ニーの務めから

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月13日

アブラムはロトに言った。「わたしたちは親類どうした。わたしとあなたの間ではもちろん、お互いの羊飼いの間でも争うのはやめよう。あなたの前には幾らでも土地があるのだから、ここで別れようではないか。あなたが左に行くなら、わたしは右に行こう。あなたが右に行くなら、わたしは左に行こう。」-創世記13:8

エジプトへの誤った旅から戻ったアブラムにとって、神が彼に与えた土地はどんなに尊いものと思われたことでしょうか！しかしながら、今や新しい学課を学ぶ必要がありました。すなわちその所有を握りしめないことです。彼は考えたことでしょう、「しかし、確かに、これらの嗣業は尊いものであり、何に代えてもこれを守るべきである！」と。私たちもまた神が賜物を下さるとき同様に考えるのです。しかしアブラムは自分の所有を手放すべきことを知りました。彼の甥のロトは最初にすべての望むものを得る選択権を得ました。

これは私たちが最初に学ぶべき学課です。私たちが自分の生まれつきの願望に従ってそれを所有することを務めることなく、神が私たちのためにそれを守ってくださることを信頼するのか。神が下さるものは、必ず下さるのです！私たちがそれを保持する必要はありません。私たちがそれを恐れつつ握り締めるならば、それを失うリスクを抱えるでしょう。私たちが真に神の手に委ねたものこそが実際的に私たちの所有となるのです。

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月14日

ヨセフは実を結ぶ若木／泉のほとりの実を結ぶ若木。その枝は石垣を越えて伸びる。弓を射る者たちは彼に敵意を抱き／矢を放ち、追いかけてくる。しかし、彼の弓はたるむことなく－創世記49:22

旧約における神の多くの僕たちのうちで、おそらくヨセフは最も完全であったでしょう。聖書には彼の欠点は露には記載されていませんが、それでも彼の問題点は困難へと彼を導いたのです。彼の困難はいつ始まったのでしょうか？それは彼の見た夢からでした。それらは靈的なビジョンを現していました。その夢の中で彼は、神が自分に対して何をなさるか、また神のご計画における自分の占める地位を見たのです。彼からあらゆる物を奪い去ったのはその夢でした。なぜなら他の兄弟はそのような夢を見ることができなかったからです。この“夢見る者”は、兄弟たちは彼をそう呼びましたが、自分から災難へと入ったのです。そして彼は奴隷として売られ、鎖につながれました(詩篇105:17)。しかしヨセフはそれを敢然と生き抜き、神の民のための神の全能のご計画を成就する器とされたのです。彼は見ていた ゆえに、最後まで固く立ち続けることができたのです。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月15日

そうしてアブラハムは、その場所を、アドナイ・イルエと名づけた。今日でも、「主の山の上には備えがある。」と言い伝えられている。－創世記22:14

イサクが生涯でたった一度自分の心に問うた質問は「焼き尽くす捧げ物のための子羊はどこにいるのだろう」でした。その解答は断固としたものでした:「神が備えてくださる」。これがイサクの典型的生き方でした。すなわち彼は嗣業を受け継ぐ者として、父から得た物をただ自由に受けまた享受したのです。彼は井戸を掘ることもませんでした。彼がなすべきは父が掘ったそれらの井戸を再度開くことでした。また彼は結婚についてもあれこれ主張することはありませんでした。ふさわしい女性について相談することもなく、また彼女を探し出すこともありませんでした。彼が葬られた墓ですら、すでに父によって買い取られていたのです。

私たちがまたイサクのように、資産家の家庭に生まれたのです。父なる神が私たちに備えて下さるものを、私たちは受け取ることができるのです。イサクの父である私たちの神は、まさに与えてくださる神ではないのでしょうか？

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月16日

主の名を呼び求める者は皆、救われる。-使徒2:21

それはどうして可能となるのでしょうか？なぜなら神はヨエルによる他の預言を成就されたからです。すなわち「わたしはわたしの霊をすべての肉に注ぐ」。聖霊はすべての人類に注ぎ出されているゆえに、神に対する人の叫びだけで十分なのです。

このことを信じない福音説教者は役に立ちません。聖霊が罪人に働きかける力は私たちのメッセージに力を添えます。天にいます神は人にとってはあまりにもかけ離れています。「心の中で『だれが天に上るか』と言ってはならない。」これは、キリストを引き降ろすことにほかなりません。・・・御言葉はあなたの近くにある。私は福音を語るときにつねに聖霊がその人の上に臨まれることを信じます。それは創造の時に水の上に神の霊が覆っていたようにです。神の霊はキリストをその人に与えようと備えておられます。その方の務めは日の光のようなものです。窓をちょっとだけ開くならば、日の光は豊かに差し込んで、部屋の中のあらゆる家具を照らすのです。神に対するささやかな心の叫びがありさえすれば、御霊はその人の中に入り込んで、罪認、悔い改め、そして信仰による造り替えのわざを開始されるのです-これが新しい誕生の奇跡です。

ウォッチマン・ニーの務めから



日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月17日

悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。使徒2:38

今私が本屋に行って二冊の本を選び、代金を払い、うっかり一冊をカウンターに置き忘れて出てきてしまったとします。それに気がついたならば、いったいどうするべきでしょうか？ただちに忘れた本を取りに戻るでしょうが、その代金をもはや払う必要はありません。店員に対してすでに払い済みであることを指摘して、ありがとうを言いながら、大騒ぎをすることもなく二冊目を抱えて店から出ることでしょう。それと同じ状況に置かれたらあなたも同じことをするでしょう。

事実、今あなたは同じ環境に置かれているのです。あなたは一冊のみではなく、二冊を受けるべき条件を満たしているのです。あなたはすでにあなたの罪々と咎を取り除かれました。ですから直ちに主の前に来なさい。そしてもし今までなしたことがなかったら、神に対して今 聖霊の賜物を得ることのゆえに感謝を捧げなさい。

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月18日

しかし、わたしを母の胎内にあるときから選び分け、恵みによって召し出してくださった神が、御心のままに、御子をわたしに示して-ガラテヤ1:15

私はもし可能であったにしても、たとえ変貌の山においてですら、弟子たちと今の私の立場を交換したいとは思いません。彼らが共に生きたキリストは時間と空間に制限された存在でした。その方はガリラヤにおられました。するとエルサレムにはおられなかったのです。エルサレムにおられたのでしたら、ガリラヤに探すことは虚しいことでした。しかし今日のキリストは時間と空間に制限されておられません。その方は、今、永遠のいのちの領域に生きられる存在とされ、御父は御子を私たちの心の内に啓示されることを喜びとなさるのです。キリストは弟子たちと一時的に共におりましたが、私たちとは永遠におられるのです。弟子たちは肉によってキリストを知り、キリストを見、キリストに触れ、親しく生活を共にしました。「しかし今や私たちはそのように知ることはすまい」、すなわち私たちは真理においてキリストを知るのです。なぜなら私は神が願われるとおりにキリストを知るからです。神は私にすでにご自身の知恵と啓示の霊を下さっているのではないでしょうか？

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月19日

アグリッパ王よ、こういう次第で、私は天から示されたことに背かず-使徒26:19

パウロの生涯を通じての神への聖別と従順を可能としたものは天からの光でした。従順はビジョンから生まれます。自分を神に捧げることは神にとって尊いものですが、盲目的な服従などは神にとっても仕えることはできません。私たちが改心した当初のときに、誰にも指図されることもなく神へと自分を捧げることと、神のご計画を明確に見ることによってさらに自分を捧げていくこととの間には違いがあると思います。自分が 救いに与ったことだけを頼りとする者には神はあまり厳しい要求をされません。しかし神がご自身の心を開かれ、神 がなされたことを私たちに見せられる時、また神が私たちに対して従順を求められ私たちがそれに新鮮にお応えする時、神は私たちがさらに明け渡し捧げることを強く求められるのです。私たちが新しく得た理解を自分の言葉で請願する時、神は私たちがその言葉の程度において獲得してくださるのです。このようにして私たちは絶えず新しい領域へと進み行くのです。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月20日

雲が幕屋を離れて昇ると、イスラエルの人々は出発した。-出エジプト40:36

古の時代の民に対する神の語りかけはケルビムの栄光の中からはなされたのと同じように、民に対する神の導きもまたそれと同じ栄光によりました。昼間は雲の柱の中から、夜は火の柱の中から神の栄光が現れ、民はそれらに従って導かれたのです。私たちにとってもまた、神のすべての啓示は神の栄光の中にあって与えられます。あらゆる事柄において神の栄光を見つめなさい、そうすればその問題においても神の導きを知ることができるでしょう。あなたは私に尋ねるでしょう、「神の導きはこれですか、あれですか」と。しかし私は逆に尋ねます、「そこに神の栄光がありますか」と。それによって判断しなさい。それ以外にあなたが考慮すべきことはないのです。なぜなら神聖な栄光そのものが神の御旨を証しするからです。かくして神の導きとは、神の栄光に適うか否かと言う単純なものなのです。神の栄光が宿るところでは私たちは道を尋ねる必要がないのです。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月21日

主があなたたちのうちにおられないのだから、上って行ってはいけない。敵に打ち破られてはならない。-民数記14:42

神が導きの御旨を変えられる可能性は常にあります。この事実によって私たちは神の御前にへりくだることを学びます。もし私たちの内に神の意志と対立する何かがあると、イスラエルがなしたように神のみ旨を変えようと試みることがあるのです。彼らは自分が罪を犯したことを認めたことは正しかったのですが、あたかも何もなかったかのように前進し得ると考えたことが間違っていました。罪があったのです。そのような状況においては神が20年も前に、否、昨年与えて下さった何かに盲目的に頼ることは愚かなことです。私たちは今この時に生きるべきであり、しかも神に頼るべきなのです。問題なのは今このときの神との関係です。なぜでしょう。それはモーセですら神から離れた時、歩みの方向を矯正されたのです。しかし神の臨在において頭を垂れる時、彼は祝福されました。一方、それを無視しようとしたイスラエルの者たちは悲惨を経験したのです。私のうちに神の意志を変えようとする何かがあるでしょうか？もしあればそれを神の調整に対して明け渡しました委ねなさい。ある日、神はそれを回復させて下さいます。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月22日

ああ、御主人よ、どうすればいいのですか。－2列王記6:15

神がご自身の奇跡をなされる時、私たちは自分自身の愚かさを笑うだけです。いぜんとして私たちが思い煩い、自分の計画に固執するのであれば、私たちは主の僕とは言えません。私は恐れつつ語りますが、多くの人にとって、神は働かれないのです。なぜなら彼らは自分自身の脱出法を持っているからです。神が働かなくとも助けをくれる友人かも知れません！最も憐れまれる人は、その究極的危機に際しても、なお自分の逃れる道を有している人です。なぜなら必要は奇跡の基礎だからです。一つを逃すことは他をも失うことです。大いなる困難は私たちが自分自身から解放され、神ご自身を頼ることへと導くのです。前にも後にも道がないときも、神には可能です。神はご計画をお持ちです。ですから不可能を恐れてはなりません。神にとってはそれらは何でもないことです。神の御足の元に服し、神がなされるのを待ちましょう。奇跡はすぐそこにあるのです。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月23日

マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし必要なことはただ一つだけである—ルカ10:41

今、率直になりましょう。主のために働くことには独特の魅力があります。人々があなたの説教を聴きに集まれば、何とワクワクすることでしょうか。もしあなたが家の中に拘束されて、毎日の義務を果たすだけの状態になったら、たちまちこう考え出すことでしょう。「何と意味のないことか！すべてを投げ出して主のために働きたい！自由さえあれば、出て行っていくらでも説教をするのだが！」と。

しかしこれは真の霊性ではありません。それは生まれながらの好みに屈すること以上のもではありません。私たちが主のためにいわゆる奉仕をすることは、実は単に自分自身のための何かを獲得することになってはいないでしょうか？私たちは安息がないために家にいてじっとしていることができないのです。それであちこちと出て行っては主のための奉仕にかこつけて、自分が解放されることを試みるのです。私たちは兄弟姉妹のために究極的な奉仕をしましょうし、また罪人を救うために働くことでしょう。しかし必要なことはただひとつです。果たして私たちは自分のためではなく、主ご自身のために仕えているでしょうか？

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月24日

主なる神は、弟子としての舌をわたしに与え／疲れた人を励ますように／言葉を呼び覚ましてくださる。朝ごとにわたしの耳を呼び覚まし／弟子として聞き従うようにしてくださる。—イザヤ50:4

私が今ここで語っていることが、はたして神からのものであるかどうか確信がないままに語ることをおそれているでしょうか？あれこれを語る時、それが内で働かれる御霊かどうかを、痛みを感じつつ意識することができているでしょうか？それを意識するあまり、私の語ることは絶対に神からのものであると主張し、単に自分が霊的に貧しい者であることを証しているだけでしょうか。豊かなクリスチャンは彼の生活における恵みの豊かさから語り出します。朝ごとに神の言葉から学びを受け、そこから豊かに引き出すことのできる霊的な富を蓄えるのです。時々に分かち与えられる、手から口へのお恵みのかけらによって生き延びるのではなく、彼は長年にわたり、溢れるほどの富を蓄えており、そこから新しいものであれ、古いものであれ、豊かに引き出すことのできるのです。そのような経験から、必要があれば、自分こそが神の仲介的託宣であると自意識過剰になることもなく、自然と御霊の思いを語り出すことのできるのです。

ウォッチマン・ニーの務めから



日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月25日

**わたしたちのお仕えする神は、その燃え盛る炉や王様の手からわたしたちを救うことができますし、必ず救ってくださいます。－ダニエル3:17**

教会はどのようにしてその目的地に到着するのでしょうか？それはただ容量が広げられるために苦しみを受け、豊かにされるために貧しさを経ることによるのです。あなたはたずねるでしょう：圧迫を受けて容量が広げられるとはどのような意味か？3人が火の中に放り込まれ、さらに一人が加わって4人となったとき、それが圧迫による容量の拡大です。四分の三ほどの者たちは炎があまりにも近くなるために、逃れる道を探すことでしょう。他の者はその状況の限界を受けれて、それを受け入れる中であって、四人目を招く余地を用意するでしょう。困難さによって私たちから神を排除することがないように。むしろ困難を与える人々による困難により、私たちが神の中へと閉じ込めなさい。これが圧迫による容量の拡大です。ある者は困難の中で神の目的を見出します、ある者は圧迫の中で自分自身の終わりに達します。ある者は困難の中で死ぬでしょうが、ある者はいのちの豊かさを発見します。ある者は困難が訪れるとつぶやき、その中で制限、限界、そして死だけを見出すでしょう、他の者はその試練の中で神を賛美し、そうする中で拡大され、自由とされ、いのちの豊かを味わう道を見出すのです。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月26日

イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。-ヨハネ19:30

クリスチャン信仰は偉大なるDO(行い)によるのではなく、偉大なるDONE(行われたこと)から開始されるのです。もちろん私たちの理性はそれに反抗します。私たち自身が進まなければ、どうして目的地に着くことができようか？努力しないで何が得られようか？私たち自身が努力しないでは何も達成することができないではないか？しかしクリスチャン信仰とは風変わりなものなのです！それは休むことから開始されます。もし私たち自身から何かを始めようとするならば、私たちは何も得ることができません。獲得しようとするならば、失うでしょう。「成し遂げられた」とイエスは言われました。パウロもまたエペソ人への手紙を、神は私たちがキリストにあって、天のところであらゆる霊的祝福をもって祝福された(完了形)、と述べて開始しています。そこで私たちは、まず第一に安息に入ること、そして神が成し遂げられたことを楽しむことへと召されているのです。決して私たちが自分で獲得するのではないのです。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月27日

見よ、わたしは契約を結ぶ。わたしはあなたの民すべての前で驚くべき業を行う。- 出エジプト34:10

多くの人が神の約束と、神が成就された事(神の全能の業)と、神の契約との区別ができていません。約束は信仰を啓発するために与えられていますが、私たちはしばしば神の約束の標準に達していません。また私たちは度々目で見えるものによって欺かれて、神聖な事実を掴むこともできません。しかしこれが私たちの実際であったとしても、私たちは神の契約を持っているのです。しかも契約は約束以上のもの、さらには全能の御業以上のものです。それは神がなされるとして、ご自身を委ねたものです。契約は私たちが信仰によってつかまるために神が下さったハンドルのようなものです。倫理的に言えば、私たちは神に対して何も要求できません。しかし神はご自身を契約の形で拘束されることを良しとされ、そのゆえに私たちは神に対して何事かをなして下さるように求めることができます。神は「私は峻厳な思いをいだきつつ言いますが」そのようにご自身を束縛されたのです。このゆえに契約の尊さが分かります。これこそが信仰が最も弱まったときでさえ、信仰を鼓舞するのです。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月28日

なぜなら、主は愛する者を鍛え、子として受け入れる者を皆、鞭打たれるからである。  
-ヘブル12:6

霊的な幻それ自体は、私たちが変えられるために十分ではないことは明らかのように見えます。ヤコブのはしごを考えて下さい。ヤコブはその曲がった行為によって家と所有を失いました。それでも神はベテルで彼を顧みられ、あまりにも素晴らしい幻を提示されたために、ヤコブは叫びました、「ここは何と畏るべき場所だろうか!」と。それに付随していた約束は完全でありかつ無条件のものでした。しかしそれと対照的に彼の神に対する応答はどうだったのでしょうか、「もし・・・もし・・・もし・・・、そうすれば私は・・・」と。神に対してさえ彼はビジネスの交渉をしかけたのです。彼は依然として変えられていないヤコブでした。

しかし、それからまもなくヤコブはラバンと関わるようになります。ラバンはヤコブと同じような人物でした。この人物や他の事件を通して、神はヤコブを長い年月の間導かれ、もっとも実りの多い訓練を与えたのです。ひとりのどうしようもない息子が厳しい取り扱いによって労働者とされたのです。しかし神の方法はつねに正当です。ついにベテルに戻ってきたヤコブは新しくされたヤコブだったのです。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月29日

露のようにわたしはイスラエルに臨み-ホセア14:5

これらの言葉は神の子供たちの経験におけるすべての事柄の始まりを述べています。露の滴りは木や草や花のいのちと成長にとって必要不可欠なものです。私たちにとっても同様であり、主は私たちにとって露のようであると約束して下さっています。私たちの人生のすべては源なるキリストからもたらされます。キリストは私たちにとって知恵、義、聖とされました—そうです、すべてとられたのです。私たちがキリストを受けるとき、満たされない必要はありません。またあらゆる賜物もキリストから切り離されて与えられるものではありません。

「露のようにわたしは」と主は約束されます。そしてホセア書の続く御言葉において、キリストを基礎とする露と共なるいのちが、神秘的な二重の側面を持っていることを語っています。ゆりの花が咲くことが、ヒマラヤ杉の深い根と結び付けられています。はかない美しさと隆々たる力強さがひとつの植物と共に描かれています。このような奇跡は天からの露の滴りによってのみ可能となるのです。

ウォッチマン・ニーの務めから

日々の黙想のために

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

1月30日

**彼はゆりのように花咲き／レバノンの杉のように根を張る-ホセア14:5**

ここでは神の子が二つの対照的な性質が結び合わされていることを見ます。地上においては、あたかも、神が植えられたゆりの花が信頼と信仰の洗練された生き方を表しているかのようです。それは人々が見ることができるものです。一方地の中深くに入りますと、この弱々しい植物に疑問の余地のないほどの強さが備わり、レバノン杉のような根が張っているのです。ここにおいて十字架を知る時に経験することができるいのちのパラドックスがあります。外見では地の上に育つ弱々しいゆりの花のようであっても、見えないところにおいてはその百倍も深い根が張っているのです。

これはテストです。私たちの生活はどれほど見られることができるでしょうか？人が表面を見るならば、それだけですべてが見られてしまうのでしょうか？それともっと深いものがあるのでしょうか？私には果たして神と共なる秘密の生活があるのでしょうか？人は単に外に見える弱々しいゆりの花だけに目を留めるでしょう。神は私たちの根に関心を持たれるのです。それはレバノン杉のように力強い根を張っているのです。

ウォッチマン・ニーの務めから